

タブレットで合唱指導 情報共有で全員に徹底！ 叡明高校合唱部顧問・岩淵智哉さん

埼玉県の^{ういめい}叡明高等学校合唱部は、総勢70人ほどの混声合唱団です。顧問の岩淵智哉さんは、コロナ禍で欠かせないマスクが合唱練習を難しくしていると考え、授業で活用しているタブレットの利点を生かした歌唱指導に力を入れています。

同校ではGoogleの“Classroom”というアプリを利用しています。これは「クラス単位で生徒や学習内容を運営・管理するための無料ツール」で、教育現場向けに提供されているものです。ネット上に“クラス”を作り、教材や課題の一括配布や採点を行い、各生徒にフィードバックできます。通知や質問の投稿も可能で、生徒は、課題の提出時に、写真などを添付することもできます。

♪マスクなしの動画で、発声を互いに確認♪

合唱の練習時、マスクで口の動きが見えず、発声の課題などを確認できないため、生徒が自宅などでマスクを外して歌った動画を作成し、それを教室で指導者とともに見ながら問題点の改善につなげています。対面ではできないことがタブレットを使うことで実現できます。

“Classroom”を使った指導の利点は、生徒の歌唱を「客観的に判断できる」こと、歌唱技術はメンタル面はもちろん、体の使い方、呼吸の仕方も影響するので、動画を見ながら、「うまくいった時の状態」と「うまくいかなかった時の状態」とを、生徒と確認しながら指導できる点は大きなメリットであると岩淵さんは考えています。さらに、さまざまな情報をクラス全員が共有できる掲示板のような機能にもあると、評価しています。

＜雑誌『教育音楽』で紹介＞

同校の取り組みについて、『教育音楽 中学・高校版 9月号』(音楽之友社)の特集「歌声を取り戻そう」のなかに＜「歌う」時間を守るために＞(岩淵智哉)と題して取り上げられています。特集には他に、「ディスタンスも楽しんでしまえるような、自由な音楽空間を」(松下耕)、「鼎談 歌声の悩み相談会」(田中裕美・稲垣潤一・黒川和伸)などが掲載されています。

NHK/全日本合唱コンクールともに金賞！

^{ういめい}叡明高校は8月4日、第88回NHK全国学校音楽コンクール埼玉県大会で金賞を獲得し、続く8月21日、第64回全日本合唱コンクール埼玉県大会高等学校部門(出場34校)で金賞・教育長賞を受賞し、9月18日に行われる関東支部大会への出場が決まりました。

今回の埼玉県大会では、会場での生演奏と録音音源のどちらかを選択する方法が採用され、8校(24%)が音源審査を受けました。音源審査となったのは、学校側が出場を禁止しているためですが、条件が異なる中での審査はかなりの難しさがあると思います。



コンクール会場のセッティング(さいたま市文化センター大ホール)

^{ういめい}叡明高校の前身は小松原高校。2015年までさいたま市にあった校地を越谷レイクタウンに移した際、校名を変更し男女共学となりました。姉妹校に浦和^{ういめい}麗明高校があります。

叡明高校合唱部は、校内で強化部に指定され、日々の練習にも力が入ります。これまでの実績としては、声楽アンサンブルコンテスト本選総合3位、NHK全国学校音楽コンクール関東甲信越ブロックコンクール銀賞、24時間テレビ『全国高等学校合唱選手権』優勝などの輝かしい記録があります。

緊急事態宣言拡大/まん延防止措置延期 悩み深まる合唱イベント開催

北海道や愛知のほか、宮城、岡山など、新たに8つの道と県に緊急事態宣言が追加されることになりました。新たな宣言発令は、北海道、宮城、岐阜、愛知、三重、滋賀、岡山、広島、さらに佐賀、宮崎にまん延防止等重点措置が適用されます。期限は、いずれも宣言が出ている東京都などと同じ9月12日まで。該当する自治体では公共施設の貸出中止や時間制限が行われています。また、各種イベントも中止に追い込まれる事態となっています。

自治体によって対応が異なり、公共施設は合唱自体禁止というところもあり、行き場を失ってやむなく練習を休みとする団がたくさんあります。埼玉では、コンクールを生演奏と録音音源を並べる形で審査が行われましたが、プログラムは従来通り作成されました。ところが、他県ではプログラムのようなものがなく、他の団体が何を演奏したか分からないという声も聞こえてきます。

また、演奏録音と一口にいっても、録音環境や装置によって大きな違いがあります。それを統一することは到底無理ですが、何らかの工夫が欲しいところです。合唱を取り巻く環境は一段と厳しさを増しています。各地域の感染状況を勘案し、適切に対応することが求められています。